

## 8 電気・水道・ガス完備！――新しい理科室！――

私は「理科室運」が悪いのかも知れない。最初の小学校には理科室が無かった。2つ目の小学校には、あるにはあったが、それは家庭科室と兼用で戸棚の半分を食器や鍋、釜が占領していた。

そして、初めて勤務することになった中学校の理科室も、住宅広告にいう「電気・水道・ガス完備」ではなかった。電気は普通教室並みで壁に1か所のコンセント、水道は部屋の隅に流し台が1つ、ガスは引かれていなかった。入口には「理科室」という表札がかかっていたが、室内には大きな机が6脚あるだけであった。そして、どういう訳かこの部屋は土間であった。一応モルタルらしいもので固めてはあったが、非常にもろく柔らかいもので丸いすの足で穴だらけであった。

昭和40年度も終わりに近づいたころ、町教育委員会の学校訪問があった。午前中は授業参観で1年の理科の時間に大勢の方がお出でになった。その日の学習は、水の沸点を調べるという内容であった。ガスがないので、前もって用務員室で熱い湯を準備してもらっていた。しかし、アルコールランプでは温度が下がっていくばかりであった。

午後には、教育委員の方々とお話し合いをさせていただく場があった。この席で「どうして、ガスバーナーを使わないのですか」というお尋ねがあり、理科室の現状についてありのままに説明し、お聞きいただいた。

その翌年、校長先生から「今年は理科室の改造が行われるらしい」というお話があった。予算がついたということのようである。うれしかったが、予算というものがどこでどのようにして決まり、どのように執行されていくのかをまったく知らなかった私である。今から思えば無知であったことを恥じるばかりである。

4つの小学校と3つの中学校、県立高等学校の分校（この分校は町立であった）を所管されていた教育委員会事務局には、教育長のほかには3人の方がおられるだけという時代である。工事関係は町長部局の受け持ちで、安原弘治氏（後に教育委員会部局で建設関係事務も担当する総務課長、教育次長や市長部局の参事を務められる）が担当者として来校された。安原氏は、確かこの年からお勤めになった方で、初めての仕事に懸命に取り組んで下さった。

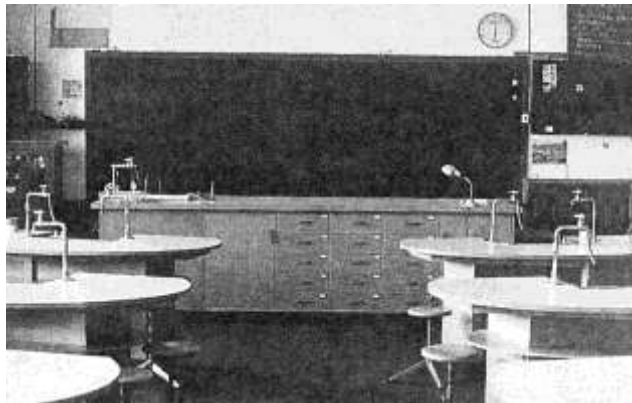
私は、理科室にかける夢を図面にかいた。放課後の理科室で構想を練った。100万円という予算でどれだけのことができるのかは分からない。とにかく、一生懸命であった。

工事が始まった。安原氏は毎日のように来てくださった。私は、宿直の夜は工事途上の教室の教壇の上に立ち、あるいは生徒が座るであろう位置に腰を下ろして共に学ぶ理科を夢想したものである。

美しく塗装された板張りの床に新しい実験機が並び、窓際に出窓と観察台が設けられ、流し台が設置され、暗幕設備も完備した理科室、掲示板も新しくなった。黒板はスチール製で磁石玉を用いて資料を提示することができるようになった。テレビの台が設けられ、きれいな

映像で学習できるようになった。私にとっては夢の理科室であった。

ただし、天井には雨漏りによる凹みや汚れが残って



いたが、予算はこれで終わりということであった。私は、学習に直接関係しない天井くらいはどうでもよいと思っていた。しかし、安原氏の考えはそうでなく、無理をして工事完了後に天井の修復とペンキ塗りをしてくださった。

私のポケットに、いつも消しゴムが入っているようになったのは、「なんとかこの状態を維持したい」と考えたこのころからのことである。そして、毎日、下校する前には机の上の汚れを消し取ったものである。そして、大勢の方々のお力で見違えるようになった理科室、いつも美しく整理された理科室は、多くの学校に押し寄せた生徒の「荒れ」を寄せつけることはなかった。

この理科室とは1年で別れ、生駒北中学校に転勤した。ここでの文部省指定道徳教育研究指定校としての研究や理科教師としての務めは楽しく充実したものであり、その仕事のいくつかは本書に書いたとおりである。しかし、3年後、極めて異例の人事で再び生駒南中学校に帰ってきた。この理科室は、別れたときのままの状態を私を待っていてくれた。そこに残っている自分の字が懐かしかった。

理科の教師は、理科室を大事にしたい。そして、実験を予定していない、主として教師の説明に終始する場合でも理科室で授業をしたい。理科室での授業は、説明を単なる言葉の説明にせず、ちょっとした実験器具を登場させることができる。また、OHPやテレビ、VTR、OHCなども常にセットしておいて活用したいものである。

学習環境が快適である理科室は、児童生徒を「理科好き」にする大きな働きを持っている。様々な学習の形態を考え、児童生徒の視線にたって施設設備などを考えた理科室を作り、これを活用したいものである。夏ならば始業前に換気し、冬ならば暖房を開始して適温にしておくなどの配慮は当然のことである。美しく清潔で落ち着くことので

きる理科室，各学年の学習の進度に応じた環境構成が行われ，理科室に入っただけで何かを学ぶことのできる理科室，学級教室以上の落ち着いたの得られる理科室を作りたいものである。